

豊島区子ども読書活動推進計画（第三次）

令和2年度 各課進捗状況

令和3（2021）年 6月

豊 島 区

目 次

第1部	計画の概要	1
1.	計画の目的	1
2.	計画の位置づけ	1
3.	計画の体系	1
4.	計画の重点分野	2
5.	計画の進捗管理	2
第2部	計画の実施状況	2
1.	数値目標	2
	子どもの図書貸出冊数の状況	2
2.	計画事業	3
	(1) 調査の実施	3
	(2) 調査項目の追加	3
	(3) 計画事業の所管課評価別の状況	3
	(4) コロナウイルス対応が計画事業に与えた影響	4
	(5) 各事業におけるSDGs該当ゴール	4
	(6) 計画事業の実施状況	4
別表1	所管課評価別の事業数	5
別表2	コロナウイルス対応の影響	6
別表3	各事業におけるSDGs該当ゴール	7
別表4	計画事業の実施状況	8

第1部 計画の概要

1. 計画の目的

豊島区は、平成18年3月に「子ども読書活動推進計画」を策定して施策を総合的に推進してきました。4年後の平成22年3月には、子どもの読書環境を取り巻く社会環境の変化に応じて計画を修正し、第二次計画として策定しました。

「豊島区子ども読書活動推進計画」(第三次)は、「一人ひとりの子どもが素晴らしい本と出会うことで、読書の魅力を発見する機会を提供し、生涯にわたる読書習慣を身に付けられるよう、発達段階に応じた読書機会の提供と読書環境の整備を図る」という第一次及び第二次推進計画で掲げた理念、目的を引継ぎ、子ども読書活動推進のための施策の方向性や取組みを示しています。

2. 計画の位置づけ

この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づく市町村の計画であり、豊島区基本計画を補完する子ども読書活動分野の総合計画に位置づけられます。また、豊島区教育ビジョン2015—豊島区教育振興基本計画—、豊島区子どもプラン(豊島区子ども・子育て支援事業計画)をはじめ関連する計画との整合性を図っています。

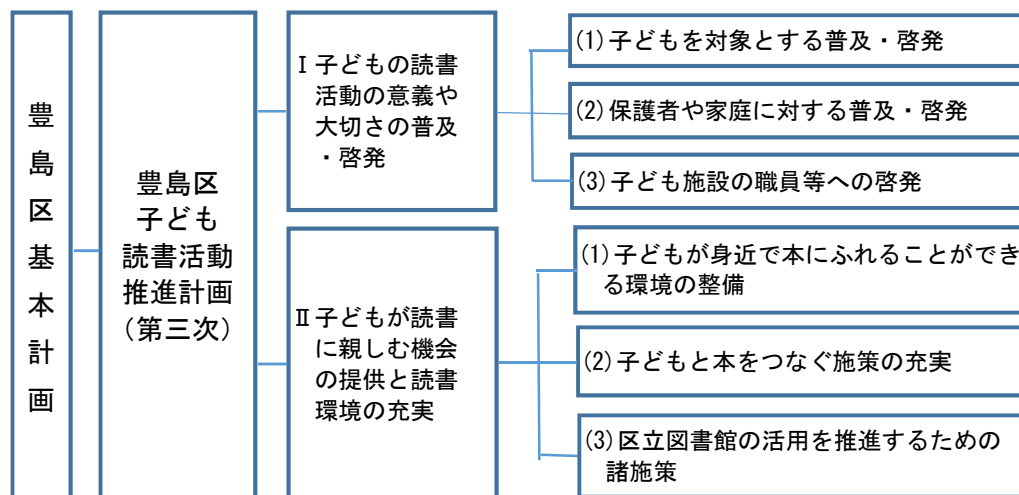
※各計画名称は、平成18年策定当時のものです。

3. 計画の体系

豊島区の子どもたちの読書活動や読書環境の現状を踏まえ、次の二つの目標を掲げ、諸施策を体系的に整理しています。また、施策の体系に沿って、新規18事業を含め92の計画事業を掲げています。(策定当時87事業)

- (1) 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発
- (2) 子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の充実

【施策の体系】



4. 計画の重点分野

本計画の施策の重点分野は、「豊島区読書活動に関する実態調査」の結果や国と東京都の動向を踏まえ、家庭における読書環境充実にかかる支援施策と小・中学生や高校生の読書活動推進にかかる諸施策に焦点をあてています。

5. 計画の進捗管理

本計画の進捗管理については、子どもの読書活動の関係機関で構成される「豊島区子ども読書活動推進会議」を中心に行い、各年度において実施状況を把握・点検しつつ、その後の施策の推進を図っています。

第2部 計画の実施状況

1. 数値目標

【子どもの図書貸出冊数の状況】

○区立図書館の子どもの図書貸出冊数

	平成26年度 [基準値]	令和元年度	令和2年度	平成32年度 [目標値]
児童書	263,513冊	324,022冊	274,725冊	277,000冊
YA書	68,846冊	61,581冊	49,089冊	73,000冊
合計	332,359冊	385,603冊	323,814冊	350,000冊

○学校図書館の図書貸出冊数

	平成26年度 [基準値]	令和元年度	令和2年度	平成32年度 [目標値]
小学校	212,810冊	329,575冊	354,528冊	224,000冊
中学校	9,824冊	17,091冊	12,689冊	11,000冊
合計	222,634冊	346,666冊	367,217冊	235,000冊

2. 計画事業

(1) 調査の実施

令和 2 年度の実施状況を取りまとめるにあたり、子どもの読書活動推進事業を実施している庁内関係部局に対し、令和 3 年 4 月に調査を実施しました。

令和 2 年度の実施状況及び所管課評価、あわせて令和 3 年度以降の実施予定について調査しています。

- ・所管課の評価については、次の 5 区分に分類しました。

「A：想定以上」、「B：想定どおり」、「C：工夫や改善必要」、「D：未実施」、「E：事業終了」

(2) 調査項目の追加

ア 令和 2 年度の実施状況調査を取りまとめるにあたり、新型コロナウイルス対策が各事業の実施に与えた影響を調査するため、調査項目の追加を行いました。

- ・「新型コロナウイルス対応により当該事業の実施可否に影響があったか。ある場合はその理由」

この調査項目については、次の 5 区分に分類しました。

「A：影響なし」、「B：施設要因」、「C：人的要因」、「D：備品要因」、「E：その他」

- ・「事業継続実施の場合、新型コロナウイルス対応で変更となる内容及びコロナ後の展開想定」

イ 2020 年に豊島区が、内閣府より「SDGs 未来都市」「自治体 SDGs モデル事業」にダブル選定されたことに伴い、各事業と SDGs との関連を調査する項目を追加しました。

- ・「SDGs の該当ゴール」
- ・「SDGs の事業内の取り込みについて」

(3) 計画事業の所管課評価別の状況

計画事業の所管課評価別の状況を別表 1（5 ページ）にまとめました。

所管課の評価

92 事業のうち、	◇A：想定以上	9 事業
	◇B：想定どおり	40 事業
	◇C：工夫や改善必要	20 事業
	◇D：未実施	21 事業
	◇E：事業終了	2 事業 となっています。

(4) コロナウイルス対応が計画事業に与えた影響

コロナウイルス対応が計画事業に与えた影響を別表2(6ページ)にまとめました。

コロナウイルス対応の影響

92事業のうち、◇A：影響なし	33事業
◇B：施設要因	41事業
◇C：人的要因	6事業
◇D：備品要因	2事業
◇E：その他	10事業 となっています。

※「E：その他」の理由として、ボランティアの方からの要望で事業中止、本の消毒方法が分からないため閲覧中止等の意見がありました。

(5) 各事業におけるSDGs該当ゴール

各事業がSDGsの該当ゴール(1~17)のうち、いずれに該当するかを別表3(7ページ)にまとめました。(複数回答)

SDGsの該当ゴール

92事業のうち、◇ゴール3	7事業
◇ゴール4	90事業
◇ゴール5	3事業
◇ゴール10	1事業
◇ゴール11	2事業
◇ゴール12	1事業
◇ゴール17	2事業 となっています。

(6) 計画事業の実施状況

計画事業を体系別に整理し、令和2年度の実施状況及び令和3年度以降の実施予定を別表4(8ページ~28ページ)にまとめました。

【 所管課評価別の事業数 】

別表 1

1 体系別

計画の体系	事業数(重点)	所管課の評価				
		A 想定以上	B 想定 どおり	C 工夫や 改善必要	D 未実施	E 事業終了
I 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発	21項目 (7項目)	1	8	5	6	1
(1) 子どもを対象とする普及・啓発事業	4項目 (0項目)	1	1	1	0	1
(2) 保護者や家庭に対する普及・啓発	11項目 (7項目)	0	5	3	3	0
(3) 子ども施設の職員等への啓発	6項目 (0項目)	0	2	1	3	0
II 子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の充実	71項目 (23項目)	8	32	15	15	1
(1) 子どもが身近で本にふれることができる環境の整備	24項目 (7項目)	4	14	4	1	1
(2) 子どもと本をつなぐ施策の充実	39項目 (16項目)	1	13	11	14	0
(3) 区立図書館の活用を推進するための諸施策	8項目 (0項目)	3	5	0	0	0
総 計	92項目 (30項目)	9	40	20	21	2

2 所管課別

所管課	事業数(重点)	所管課の評価				
		A 想定以上	B 想定 どおり	C 工夫や 改善必要	D 未実施	E 事業終了
地域区民ひろば課 ※	6項目 (1項目)	0	2	2	2	0
文化デザイン課	4項目	0	2	2	0	0
学習・スポーツ課	1項目 (1項目)	0	0	0	1	0
図書館課 ※	47項目 (13項目)	4	16	10	16	1
池袋保健所(健康推進課)・長崎健康相談所	2項目 (1項目)	0	0	1	1	0
子ども若者課	2項目	0	2	0	0	0
子育て支援課	4項目 (2項目)	0	4	0	0	0
保育課	7項目 (2項目)	0	5	1	1	0
学務課(区立幼稚園含む)	3項目 (1項目)	3	0	0	0	0
放課後対策課 ※	5項目 (1項目)	1	1	2	1	0
指導課(区立幼稚園・小学校・中学校含む)	14項目 (9項目)	0	9	3	0	2
計	95項目 (31項目)	8	41	21	22	3

※ 3事業については3課が所管している。

※ 事業No.45「子どものための文化体験プログラムの実施」については、令和2年度より、文化デザイン課と保育課に分割された。

※事業No.63,70「学校図書館への区立図書館司書の活用」については、平成30年度に事業が終了したため、数値に加えていない。

【 コロナウイルス対応の影響 】

別表 2

1 体系別

計画の体系	事業数(重点)	コロナウイルス対応の影響				
		A 影響なし	B 施設要因	C 人的要因	D 備品要因	E その他
I 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発	21項目 (7項目)	6	10	1	1	3
(1) 子どもを対象とする普及・啓発事業	4項目 (0項目)	2	1	0	0	1
(2) 保護者や家庭に対する普及・啓発	11項目 (7項目)	4	5	1	0	1
(3) 子ども施設の職員等への啓発	6項目 (0項目)	0	4	0	1	1
II 子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の充実	71項目 (23項目)	27	31	5	1	7
(1) 子どもが身近で本にふれることができる環境の整備	24項目 (7項目)	14	7	0	1	2
(2) 子どもと本をつなぐ施策の充実	39項目 (16項目)	7	22	5	0	5
(3) 区立図書館の活用を推進するための諸施策	8項目 (0項目)	6	2	0	0	0
総 計	92項目 (30項目)	33	41	6	2	10

2 所管課別

所管課	事業数(重点)	コロナウイルス対応の影響				
		A 影響なし	B 施設要因	C 人的要因	D 備品要因	E その他
地域区民ひろば課	6項目 (1項目)	1	0	0	0	5
文化デザイン課	4項目	0	3	0	0	1
学習・スポーツ課	1項目 (1項目)	0	1	0	0	0
図書館課	47項目 (13項目)	21	26	0	0	0
池袋保健所(健康推進課)・長崎健康相談所	2項目 (1項目)	0	0	0	0	2
子ども若者課	2項目	1	1	0	0	0
子育て支援課	4項目 (2項目)	0	3	1	0	0
保育課	7項目 (2項目)	1	4	1	0	1
学務課(区立幼稚園含む)	3項目 (1項目)	3	0	0	0	0
放課後対策課	5項目 (1項目)	2	1	2	0	0
指導課(区立幼稚園・小学校・中学校含む)	14項目 (9項目)	6	4	2	1	1
計	95項目 (31項目)	35	43	6	1	10

【 各事業におけるSDGs該当ゴール 】

別表 3

1 体系別

計画の体系	事業数(重点)	SDGsの該当ゴール						
		3	4	5	10	11	12	17
I 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発	21項目 (7項目)	2	21					
(1) 子どもを対象とする普及・啓発事業	4項目 (0項目)		4					
(2) 保護者や家庭に対する普及・啓発	11項目 (7項目)	1	11					
(3) 子ども施設の職員等への啓発	6項目 (0項目)	1	6					
II 子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の充実	71項目 (23項目)	5	69	3	1	2	1	2
(1) 子どもが身近で本にふれることができる環境の整備	24項目 (7項目)	2	23	1		1	1	
(2) 子どもと本をつなぐ施策の充実	39項目 (16項目)	3	38	2	1	1		2
(3) 区立図書館の活用を推進するための諸施策	8項目 (0項目)		8					
総計	92項目 (30項目)	7	90	3	1	2	1	2

2 所管課別

所管課	事業数(重点)	SDGsの該当ゴール						
		3	4	5	10	11	12	17
地域区民ひろば課	6項目 (1項目)		6					2
文化デザイン課	4項目		4					
学習・スポーツ課	1項目 (1項目)		1					
図書館課	47項目 (13項目)		47					
池袋保健所(健康推進課)・長崎健康相談所	2項目 (1項目)	2	2					
子ども若者課	2項目	1	2	1				
子育て支援課	4項目 (2項目)	4						
保育課	7項目 (2項目)		6	1	1	2		
学務課(区立幼稚園含む)	3項目 (1項目)		3					
放課後対策課 ※	5項目 (1項目)		5					
指導課(区立幼稚園・小学校・中学校含む)	14項目 (9項目)		14	1			1	
計	95項目 (31項目)	7	90	3	1	2	1	2

※SDGs各ゴール
 3:すべての人に健康と福祉を
 4:質の高い教育をみんなに
 5:ジェンダー平等を実現しよう
 10:人や国の不平等をなくそう
 11:住み続けられるまちづくりを
 12:つくる責任つかう責任
 17:パートナーシップで目標を達成しよう

【 計画事業の実施状況 】

I. 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発

(1) 子どもを対象とする普及・啓発事業

別表 4

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画(28~32年度)	実施状況(令和2年度)	コロナウイルス対応により当該事業の実施可否に影響があったか。ある場合はその理由(令和2年度)	所管課の評価	評価理由	R3以降の実施予定	事業継続実施の場合、コロナウイルス対応で変更となる内容及びコロナ後の展開想定	SDGsの該当ゴール	SDGsの事業内の取り込みについて	課名
1			子ども向け図書利用案内の作成・配布	豊島区立図書館利用案内を〈小学校・幼稚園版〉と〈中学校版〉(新規)を作成し、幼稚園、小中学校へ配布し、区立図書館の利用を促進する。	小・幼稚園・小学生	毎年度、区立小学校新1年生に配布	毎年度関係施設へ配布	図書館利用案内配布施設数。 ・区立小学校 22	A:影響なし	B:想定どおり	例年どおり新小学1年生へ区立図書館の利用案内を配布した。	継続実施	特になし	4	読書機会の提供	図書館課
2			子ども向け各種行事の実施	子ども読書の日(4月23日)や文字・活字文化の日(10月27日)などの記念の日にならむ行事を実施し、8月中旬には平和普及事業として関連図書の企画展示などをして、記念の日の意義や図書を周知・啓発する。	小学生	・子ども読書の日 ・文字・活字文化の日 ・平和普及事業	毎年度実施	例年のお話し会等の行事は未実施。 本の福袋など、図書館の滞在時間が短い事業を展開した	B:施設要因	C:工夫や改善必要	コロナ禍における事業展開を検討	継続実施	コロナ禍における事業展開を検討	4	図書館への来館及び読書機会の提供	図書館課
3			区立小・中学校RCフェスタの開催	区立小・中学校、区立図書館と連携して「RC(Reading and Communication) フェスタ」を開催し、教育委員会推薦図書の普及・啓発、本との出会いや読書の楽しさを伝え、読書習慣の形成を図る。	小・中学生	実施回数	年1回	「RC(Reading and Communication) フェスタ」中止。	E:その他	E:事業終了	イベント実施目的を達成したため。	RCフェスタは終了し、各小・中学校図書館での活動を通じ読書を習慣づけていく。	大規模なイベントとしては実施せず、読書週間の推進や読書感想文コンクール実施等により読書活動を推進していく。	4	各学校の教育課程に「読書週間」「旬間・月間」等を位置付け、読書活動を積極的に推進するとともに、図書とタブレット端末による調べ学習ができる環境整備により読書習慣を確立し、基礎学力の向上と質の高い教育を実現する。	指導課
4			点字図書館サービスのPR	点字図書館サービス(点訳・音訳・対面朗読サービス等)を紹介するパンフレットやCDを作成・配布し、特別な支援を必要とする子どもの利用を促進する。	特別な支援を必要とする生徒	・パンフレットの作成 ・CD版パンフレットの作成	必要に応じてパンフレット・CD等を改訂	・広報としま 10月1日号 ・テレビ広報で特集	A:影響なし	A:想定以上	50周年の節目を活かし、周知を行った	継続実施	特になし	4	障害者サービスの周知による障害者への読書機会の提供と、障害者理解の促進	図書館課

(2) 保護者や家庭に対する普及・啓発

5	重		乳幼児健診時の絵本の読み聞かせとブックリストの配布	乳幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせを行い、図書館利用のPRとブックリストを配付して家庭での読書を推進する。	乳幼児・保護者	・パパ・ママ準備教室 ・1歳6か月児健診	毎年度実施	池袋保健所と長崎健康相談所ブックリストの配布	B:施設要因	D:未実施	読み聞かせは中止とした	継続実施	連携先と調整のうえ、検討	4	就学前教育機会の提供	図書館課
6			ブックリストの作成・配布	乳幼児及び児童向けのブックリストを作成し、保育園、幼稚園、区立小学校等に配布するとともに、図書館で開催する行事などの機会に子どもや保護者に配布して読書活動を啓発する。	小・中学生 保護者	配付先施設数 (保育園、幼稚園、区民ひろば、保健所)・区立小中学校(全校生徒)	改定時に配付	乳幼児向けブックリスト配布施設数。 ・幼稚園 16 ・保育園 75 ・子ども家庭支援センター 2 ・区民ひろば 26 ・池袋保健所 ・長崎健康相談所 ・区立小学校 22 ・区立中学校 8	A:影響なし	B:想定どおり	区立小中学校の児童生徒は、全員に配付	継続実施	特になし	4	就額前教育機会の提供 児童生徒の読書機会の提供	図書館課
7	重	28新	子育てインフォメーション活用による図書館利用の促進<新規>	子育て中の保護者への情報発信として、子育てインフォメーションと連携して、図書館で主催する行事のパンフレットやブックリストを配布し、読書活動や図書館利用を促進する。	保護者	各種行事の情報提供	毎月行事チラシを配布	・お話し会カレンダー、チラシの配付	A:影響なし	B:想定どおり	子育てインフォメーションへのチラシ提供による図書館行事の周知を行い、図書館利用の促進を図った。	継続実施	特になし	4	就学前教育機会の提供	図書館課
8			子ども向け図書館ホームページ充実による家庭における読書活動の啓発	保護者に読み聞かせのすすめや絵本の選び方、絵本やブックリストの紹介、おはなし会等の案内を掲載し、家庭における読書活動を啓発する。	高校小生・中学生 保護者	特集欄の紹介	毎月(YAは隔月)	・特集展示 毎月 ・全館児童共通行事 7回 ・YAおすすめ本紹介 毎月 ・各館児童行事の周知	A:影響なし	B:想定どおり	各館主催の各種児童行事を図書館HPで周知を行った。	継続実施	特になし	4	就学前教育機会の提供 児童生徒の読書機会の提供	図書館課

9	重	大人のための子どもの読書を考える講座の開催	家庭教育学級の中で、保護者向けに子どもの読書活動を考えるきっかけとなるような各種講座を開催する。	保護者・家庭	参加人数	第二次までの取組みを継続	家庭教育学級としては1講座実施したが、子どもの読書活動についてはふれていない。	B:施設要因	D:未実施	子どもの読書活動の視点が欠けているため。	講座会場のみらい館大明ブックカフェと連動して行う。	講習会の参加人数を減らすか、オンライン講座に切り替えて実施することを検討。	4	保護者に向けて、子どもとともに本を楽しむ家庭教育の場とする。	学習・スポーツ課
10	重	子どもスキップ保護者会等での子ども読書に関する啓発	保護者会等で、良質な長く読み継がれている本を紹介し、読書の意義や大切さを啓発する。	保護者	実施施設数	全てのスキップで実施	所長や校長が推薦する本を紹介するコーナーを設置した。(7施設)	C:人的要因	C:工夫や改善必要	全施設で実施するよう働きかける必要がある。	継続実施	コロナ対策のため、保護者会等、人を集める事業の実施は制限がかかるが、良書をおたよりで紹介する等、工夫をしていく。	4	推薦図書の紹介を通して、すべての人が充実した教育を受け、一生学び続けられる社会をつくるための活動とする。	放課後対策課
11	重	保育園を通じた保護者への子ども読書に関する啓発	保護者会や園だより等で、子どもが喜んで手にしている絵本や保育園で長く読み継がれている本などを紹介する。	保護者	絵本の紹介	全園で実施	・全園で実施した。 ・保護者会やクラスだよりなどで、子どもたちの好きな絵本・興味を持っている本などを紹介した。	B:施設要因	B:想定どおり	各保育園で工夫を凝らし、保護者に絵本を紹介することで、保護者への啓発に取り組んでいるため。	継続実施	対面での紹介は難しいと思われるため、ホームページやクラスだよりなどの紙面で知らせる。また絵本コーナー滞在時間を短めにしてもらおう保護者に依頼する。	4	子ども達に対しては、絵本を通して様々な情勢を知ることで意識啓発を行っていく。保護者に対しても、絵本を通して子ども達へ伝えたメッセージなどを知らせ、親子での会話のきっかけを作ってもらおう中、多様な世界を知る機会につなげていく。子どもが自分の好きな本に出合えるように、手に取れるところに色々なジャンル、作家、国等の絵本を揃えるなど、環境整備をする。	保育課
12	重	保護者会等を通じた児童の読書活動に関する啓発	保護者会や学校だよりを通じて、子どもの読書活動の意義や大切さ、図書の情報等を提供する。	小学保護生	図書だよりの発行	学期ごとに1回発行	図書館だより、学校だより、学年便り等のツールを使って、保護者に読書活動の推進をよびかけた。	A:影響なし	B:想定どおり	定期的に情報を発信することが出来ているため。	継続実施	図書室の密を避け、手洗い等の徹底をした上で活動を継続する。	4	保護者を通して子供の読書活動の大切さについて普及啓発を行うとともに、一人ひとりの子供の読書活動の推進を支援する。	小学導校課

13	重 新	28 新	鬼子母神Plusにおける図書コーナー設置による啓発<新規>	池袋保健所1階に設置した若者向け健康情報スペースに、地域の書店等との連携で本屋さんの推薦図書や育児雑誌コーナーを設置し、乳幼児と保護者向けに絵本や本を展示、紹介する。	区民	月替りで書籍紹介	毎年度12回	年10回展示のうち親子で楽しめる本の紹介 5回 ・お家で世界料理の本 ・芸術にふれてみる(マンガ) ・寒さに負けない料理の本 ・クリスマスの海外小説 ・ねこねこづくしの本	E:その他	C:工夫や改善必要	非常事態宣言のため、2回休止。 本のジャンル、冊数が充実したため、新たな購入は終了とする。今後は限られたスペース内で所有する書籍をどのように紹介していくか検討する。	継続実施	限られたスペースを有効に活用し、引き続き書籍の紹介を行っていく。	3、4	絵本だけでなく、親子で楽しめる本の情報を提供していく。	健康推進課
		29 新	公民連携を活用したおはなし会の実施	西武百貨店屋上及び子どもフロアや南池袋公園内カフェ(ラシース)等の民間企業との連携によるおはなし会を実施することで、図書館の利用促進及び読書活動の大切さを普及・啓発する。	保護者・乳幼児	・公民連携おはなし会実施回数 ・公民連携おはなし会参加者数	毎年度11回実施 参加者数340人	中止	B:施設要因	D:未実施	コロナ感染拡大防止のため、中止	西武百貨店との連携事業は継続実施。	連携先と調整のうえ、検討	4	就学前教育機会の提供 児童生徒の読書機会の提供	図書館課
		30 新	読書ノート～パパ・ママの読み聞かせノート～配付による読書活動の普及・啓発	乳幼児のおはなし会や未就学児対象のイベントに参加する保護者に読書ノートを配付し、家庭における読書活動を促進する。	乳幼児	読書ノート配付数	毎年度配付数1,000冊	未就学児対象の図書館行事で、イベント参加の保護者に読書ノート～パパ・ママの読み聞かせノート～を547冊配布した。	B:施設要因	C:工夫や改善必要	コロナにより、来館者減	継続実施	特になし	4	就学前教育機会の提供 児童生徒の読書機会の提供	図書館課

(3)子ども施設の職員等への啓発

14			区立図書館の講習会を活用した職員のスキルアップ	図書館主催の子どもの読書に関する講習会を活用し、ひろば職員の読み聞かせ技術のスキルアップを図る。	ひろば職員	図書館講習会受講	22施設	講習会未実施のため受講者なし。これまでの研修で学んだことを生かしながら日々の事業の中でスキルアップを図った。	E:その他	D:未実施		継続実施	講習会が再々された場合は未受講者の積極的な受講を促し、読み聞かせスキルの向上を図る。	4	読み聞かせの機会を通じて乳幼児期から図書に興味を持てるようにし、生涯を通じて読書習慣の形成を図る。	地域区民ひろば課
15		28 新	読書に関する講習会の開催<新規>	電子書籍等の読書に関する新しい媒体について、適切な活用方法を学ぶ講習会を開催する。	区民ひろば課職員	講習会の開催	・28年度職員研修「講習会」開催 ・29年度以降区民向け講習会を各区分ひろばで開催	講習会未実施。前年度からの経緯を踏まえて、区民ひろばにおいては、読み聞かせの充実、親子の触れ合い、よりよい絵本の提供などの事業の充実を図っている。	E:その他	C:工夫や改善必要	電子書籍等新しい媒体を利用するのメリットデメリットを再度確認、共有したうえで、区民ひろばでの研修の実施について検討する必要がある。	電子書籍等の読書に関する情報収集を図っていく。		4	新しい媒体を活用した読み聞かせの機会を通じて、乳幼児期から図書に興味を持てるようにし、生涯を通じて読書習慣の形成を図る。	地域区民ひろば課
16			児童・YAサービスの充実に向けた職員研修の実施	児童・YAサービスの向上のため、図書館課が主催する研修や専門研修等により職員のスキル、資質の向上に取り組む。	図書館職員	・子どもの読書に関する講習会(回数・受講者数) ・児童図書館専門研修(受講者数)	2回	中止	B:施設要因	D:未実施	コロナ感染拡大防止のため、中止	継続実施	コロナ禍における事業展開を検討	4	就学前教育機会の提供 児童生徒の読書機会の提供	図書館課

17		子どもの読書に関する講習会の開催	年2回、子ども読書ボランティア、子ども施策関係部署職員、図書館職員等を対象に講習会を開催し、子どもの読書支援に関するスキルアップや資質の向上を図る。	関係部署職員	講習会	2回	中止	B:施設要因	D:未実施	コロナ感染拡大防止のため、中止	2回開催	コロナ禍における事業展開を検討	4	就学前教育機会の提供 児童生徒の読書機会の提供	図書館課
18		職員への読書に関する研修の実施	子ども職場の職員を対象とする「子ども福祉研修」で、子どもと本や読書に関わる研修を実施して、子どもの読書支援のスキル向上を図る。	職員	開催回数	年1回開催	子ども福祉施設職員を対象とした子ども研修の講義の中で、乳幼児の遊びや日常の対話力の向上に役立つ絵本の紹介を行った。	B:施設要因	B:想定どおり	ソーシャルディスタンス確保のため、各施設1名で実施したが、参加できなかった希望者には資料を配布し、自身の学びに生かしてもらった。	継続実施	ソーシャルディスタンス確保のため、引き続き広い会場の確保に努めるとともに、会場規模に見合った定員で実施する。参加できない希望者には、研修資料を配布する。	3.4	子どもの育ち、遊び、学びを子どもの主体性を尊重しながら充実させていくために、子ども施設職員の研修を実施する。	子ども若者課
19		職員のスキルアップと資質の向上	「子ども福祉研修」はじめ各種研修や講習会等への職員参加により、本と子ども達を結びつけるためのスキルアップと資質向上を図る。	職員	・研修への参加 ・勉強会実施	全園で実施	・コロナの影響により一部の園では未実施。 ・子ども福祉研修などの研修や講習会は中止になったが、園内研修を行ったり、職場内で絵本に対する知識・理解向上のために資料を共有するなどし、園全体としてスキルアップと資質向上を図った。	B:施設要因	B:想定どおり	コロナ禍で一同に会する研修は中止になったが、絵本の大きさなど紙面資料を使うなど工夫し、知識を共有し資質向上を図った。	継続実施	人数を制限した研修の取り組み。オンライン研修。Zoomなどの使用。	4	質の高い教育を提供するための研修を組織全体として取り組む。	保育課

II. 子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の充実

(1)子どもが身近で本にふれることができる環境の整備

【乳幼児】

20		地域区民ひろばの本のある環境づくりの推進	計画的な図書購入とリサイクル本の活用などで、子育てひろば等に本のある環境作りを行う。	関係機関	年度当初に図書購入予算措置	22施設	各区民ひろばに読書スペースを設置しているが、感染防止のため利用を一部制限した。 ・リサイクル本の活用(22施設)は継続した。	E:その他	C:工夫や改善必要	より魅力ある環境の整備を検討する必要があるため。	子どもの興味のある絵本の購入とゆつくり楽しめる環境の工夫をしていく。	感染予防のため、一部利用の制限を継続する。状況が落ち着いた後は、乳幼児連れ親子が気軽に図書を手に取れる環境を整備していく。	4	読書環境を整備し乳幼児親子の読書機会をつくることで、生涯を通じた読書習慣の形成を図る。	ひろば区民
21		乳幼児向けブックリスト図書コーナーの設置	乳幼児向けブックリストに掲載されている絵本のコーナーを設置して、保護者や乳幼児が本を手取る機会を増やす。	乳幼児	乳幼児向けブックリストの掲載図書コーナーを設置	事業を継続	全館でブックリストの掲載本コーナーを設置し、利用促進を図った。	A:影響なし	B:想定どおり	ブックリストによる推薦とリスト掲載図書展示コーナーとの連携により、図書館がおすすめする本を利用しやすい環境を保持している。	継続実施	特になし	4	就学前教育機会の提供	図書館課
22		リサイクル図書の子ども施設での活用	区立図書館で除籍処理した図書を、希望に応じて子ども施設へリサイクル図書として提供し活用する。	小・乳・幼稚園	リサイクル図書提供施設数・冊数	区内保育園、幼稚園、区立小・中学校、子ども施設と連携	2,458冊をリサイクル図書として公共施設へ提供した。	A:影響なし	A:想定以上	前年度の約2倍のリサイクル図書を子ども関連施設へ提供し、図書の有効活用を図った。	継続実施	特になし	4	就学前教育機会の提供児童生徒の読書機会の提供	図書館課
23		保健所の絵本コーナーの充実	乳幼児健診会場にブックリスト『ねえ、よんで』掲載図書の絵本コーナーを設置している。	乳幼児・保護者	健診来所者数	26,500人	乳幼児健診実施時に、待合に本を配架し自由に閲覧できるようにしていたが、感染防止のため令和2年度は配架せず。	E:その他	D:未実施	本を介した感染を予防するため、待合に配架しない判断をした。	継続実施	感染防止の観点から、当面の間、本の配架はしない。コロナ後は自由に閲覧できるよう配架を再開する。	3、4	読書機会を創出し、子供がみずから本に手を伸ばす環境づくりを行う。	長崎健康推進課
24	重	子ども家庭支援センターの絵本コーナーの充実	親子あそび広場、一時保育室、発達支援室に絵本コーナーを設置して、親子が本に親しむ環境を整備する。	乳幼児・保護者	各事業利用者数	378,000人	<東西子ども家庭支援センター> ・一時保育利用人数 年間2,696人 ・親子あそび広場利用人数(子ども) 年間12,285人 <西部子ども家庭支援センター> ・発達支援事業利用児童数 年間5,355人	B:施設要因	B:想定どおり	各事業利用者数合計は、施設の密を防ぐための利用制限により減っているが、絵本の数や内容は充実してきているため。	継続実施	一時保育は1日の利用者数を減らし実施。親子遊び広場は、利用者数および利用時間を制限しながら実施。発達支援事業は、継続実施。	3	絵本を活用することで子育てに対する不安解消につながることを目的とし支援を行う。	子育て支援課
25	重	保育園の蔵書の家庭への貸出	各園に絵本コーナーを設置して絵本に親しむとともに、園児の保護者や地域の親子に絵本の貸出を行う。	保護者・園児	絵本コーナーの設置	全園で実施	・コロナの影響により一部の園では未実施。 ・絵本の貸出コーナーの設置はもちろん、絵本の入れ替えや修理などを通して親子で絵本に親しめるように各園で工夫をした。	B:施設要因	C:工夫や改善必要	・地域の親子の入室に対する抵抗感と絵本の消毒に課題 ・コロナ禍の中での貸し出しの工夫	継続実施	今後の感染者数、消毒方法等に変更等があった場合には、貸し出しを控えることも可能性も視野に入れておく。消毒の徹底やソーシャルディスタンスを取れるような、場所の確保をしていく。	4	・子どもが自ら本に手を伸ばす環境づくりを行う。 ・親子で楽しめる環境づくりを行う。 ・絵本の種類を増やす。	保育課

26		保育園の図書等の整備と充実	区立図書館の団体貸出利用やリサイクル図書の活用、近隣の方からの寄贈図書などを活用して、保育園の読書活動の整備を図る。	全園児	区立図書館のリサイクル図書利用、近隣の方からの寄贈。	全園で実施	・コロナの影響により一部の園では未実施。 ・図書館の団体貸出の活用や、近隣の方や卒園児保護者からの寄贈により各園で図書の充実を図った。	B:施設要因	B:想定どおり	子どもは図書館に行けなかったが、担任が毎月本を借りに行っていた。図書館の制限等があったが、状況に合わせ、利用できた。リサイクル本の活用ができた。	継続実施	図書看の利用は様子を見ながら実施予定。寄贈図書については感染予防対策してから利用していく。	4・11	絵本に親しみを持ち、図書館という公的な施設利用のルールを知る。良質な教育の機会を得る。	保育園
27		幼稚園の蔵書の充実	幼児の興味や教育内容に応じて、絵本等を購入し蔵書の充実を図る。	全園児	購入図書	40冊	園平均74冊	A:影響なし	A:想定以上	目標の購入数を大幅に超えたため。	引き続き蔵書の充実を図る。	特になし	4	すべての園児が読書に慣れ親しむ機会を得られるよう、支援する。	区立学幼務課園
28	重	幼稚園の蔵書の家庭への貸出	幼稚園が蔵書している図書を、家庭へ貸出す。	全園児	貸出回数	35回	毎週1回程度、幼稚園が蔵書している図書を、家庭へ貸出している。	D:備品要因	B:想定どおり	感染予防を行いながら、各幼稚園の実態に応じて実施しているため。	継続実施	手洗い、消毒の徹底。	4	すべての園児が読書に慣れ親しむ機会を得られるよう、支援する。	区立指幼務課園

【小学生】

22		リサイクル図書の子ども施設での活用	再掲	小・乳中幼学児校	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲				図書館課
29		郷土資料に関する資料の充実・公開・調べ学習支援	郷土資料館が収蔵資料を充実させるとともに、資料のデータベース化とその資料の公開による活用をすすめる。郷土資料の調べ学習に関する電話や窓口におけるレファレンスを行う。	小・中学生	随時	・郷土に関する図書資料(子ども向けを含む)を購入・寄贈等により収集 ・電話や窓口における支援(レファレンス)を実施 ・区ホームページ内の「キッズページ」に区の歴史などを紹介するページを作成 ・郷土資料館に設置している利用者端末にクイズ形式で区の歴史などが楽しめるコンテンツを作成	・生活資料や文書資料、受け入れ図書等約3000件のデータ化を行った。 ・調べ学習のレファレンスに随時対応を行うとともに、小学校3年生の社会科授業に沿った内容で区内1校の小学校に対応した。	B:施設要因	B:想定どおり	区民の方から寄贈を受けた生活資料や文書資料を適切にデータ化し、必要に応じ、調べ学習のレファレンスや小学校3年生の社会科授業の「むかしのくらし」単元に対応するべく活用しているため。	継続実施	特になし	4	郷土資料の収集、所蔵、提供、デジタル化を進めることで、教育の機会を創出し、文化遺産の保護を行う。	文化デザイン課
30		雑司が谷旧宣教師館の児童図書コーナーの充実	雑司が谷旧宣教師館に児童図書コーナーを設置し、「赤い鳥」等を収集し、見学者の閲覧に供する。	小・中学生	随時	雑司が谷宣教師館でも、児童図書コーナーの運営と「赤い鳥」等の地域に関わる児童図書資料の収集を継続	雑司が谷旧宣教師館の児童図書コーナーで「赤い鳥」をはじめとする児童図書を閲覧に供するとともに、「赤い鳥」を語り継ぐおばあちゃんのおはなし会を毎月実施し、周知を行った(12～3月は建造物の修繕のため休止)。	B:施設要因	B:想定どおり	雑司が谷旧宣教師館の入館者のうち小中学生の割合はまだ少ないのが現状である。おはなし会等を通じて、児童図書コーナーの周知を図っていくため。	継続実施	特になし	4	旧宣教師館の児童図書コーナーで、身近に図書に触れる機会を創出し、生涯学習の機会の提供、促進を行う。	文化デザイン課

31		小学生向けブックリストの図書コーナーの設置と図書の充実	小学生向けブックリスト『よんでみよう』に掲載した図書のコーナーを全館に設置して、読書活動のきっかけを作る。	小学生	特集展示	12回	2020年度版ブックリスト掲載図書「ねえ、よんで」13冊と「ほんのしまとしま」11冊を常設展示し、利用促進を図った。	A:影響なし	B:想定どおり	ブックリスによる推薦と掲載図書展示コーナーとの連携により、図書館がおすすめする本を利用しやすい環境を保持している。	継続実施	特になし	4	読書機会の提供	図書館課
----	--	-----------------------------	---	-----	------	-----	--	--------	---------	---	------	------	---	---------	------

32		外国語図書等の整備・充実	外国語の絵本や日本人作家の外国語版の図書等を収集・所蔵して、外国人等の図書館利用の利便性を高める。	小・中学生	・外国語の絵本 ・日本の作家の外国語版	全館で購入	全館で英語75冊を購入した。	A:影響なし	C:工夫や改善必要	英語版以外の購入が進まなかった。	東京オリンピック開催に合わせて、収集を増やしていく。	特になし	4	読書機会の提供、多様性への理解	図書館課
33		郷土に関する図書資料等の収集の充実と提供	豊島区の歴史や民話、豊島区に関わる作家の作品等を積極的に収集・所蔵し、提供する。地域資料のデジタル化を進める。	小・高・中学生	郷土資料を収集	収集を継続	デジタル化1点	A:影響なし	B:想定どおり	地域資料のデジタル化を進めている。	継続実施	特になし	4	読書機会の提供	図書館課
34	重 28 新	オリンピック・パラリンピックに関連づけた読書活動の推進<新規>	オリンピック大会の開催を機会に、世界各国の歴史・文化・習慣などを学び、知識や情報を得るための企画展示や関連図書をすすめて、読書活動を支援する。	小・中学校	企画展示	区立図書館 区立小・中学校	8月29日～10月22日全館で「東京でおもてなし～56年ぶりの夢」でオリンピック関連の図書の特集展示を行った。	A:影響なし	B:想定どおり	計画通り企画展示を実施した。	継続実施	特になし	4	読書機会の提供、多様性への理解	図書館課
35		子どもスキップの読書コーナーの充実	子どもスキップの読書コーナーの蔵書を、区立図書館の団体貸出等を活用して充実させ、利用する小学生の読書活動を推進する。	小学生	実施施設数	全てのスキップで実施	読書コーナー図書は、図書ネット便を利用、または子どもたちのリクエスト図書を購入した。(22施設)	A:影響なし	B:想定どおり	図書ネット便を有効活用していた。	継続実施	コロナ対策のため休止している一般利用再開時に備え、読書コーナー図書の充実を図る。	4	図書コーナーの充実を通して、すべての人が充実した教育を受け、一生学び続けられる社会をつくるための活動とする。	放課後対策課
36	重	学校図書標準を基準とした学校図書資料の充実	小中学校の学校図書館の蔵書を、学校図書標準を基準に整備・充実する。	小学生	学校図書標準	70～80%になるように継続	・各学校、学校図書標準の達成に向け、図書の整備充実を図っている。 ・学校図書標準を満たした小学校の割合 100% 22校中22校)	A:影響なし	A:想定以上	すべての小学校が学校図書館図書標準を達成したため。	児童数・学級数が増えているが、引き続き学校図書標準を全小学校が達成する。	特になし	4	蔵書を充実させ、調べ学習ができる環境整備により読書習慣を確立し、基礎学力の向上と質の高い教育を実現する。	学務課
				中学生	学校図書標準	70～80%になるように継続	・各学校、学校図書標準の達成に向け、図書の整備充実を図っている。 ・学校図書標準を満たした中学校の割合 100% 8校中8校	A:影響なし	A:想定以上	すべての中学校が学校図書館図書標準を達成したため。	生徒数・学級数が増えているが、引き続き学校図書標準を全中学校が達成する。	特になし	4	蔵書を充実させ、調べ学習ができる環境整備により読書習慣を確立し、基礎学力の向上と質の高い教育を実現する。	学務課

【中学生】

29		郷土資料に関する資料の充実・公開・調べ学習支援	再掲	小・中学生	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲				文化デザイン課
30		雑司が谷旧宣教師館の児童図書コーナーの充実	再掲	小・中学生	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲				文化デザイン課

32		外国語図書等の整備・充実	再掲	小・中学生	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲			図書館課	
33		郷土に関する図書資料等の収集の充実と提供	再掲	小・高・校中学生	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲			図書館課	
34	重 新	オリンピック・パラリンピックに関連づけた読書活動の推進<新規>	再掲	小・中学校	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲			図書館課	
36	重	学校図書標準を基準とした学校図書資料の充実	再掲	小学生	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲			学務課	
				中学生	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲			学務課	
37		YAコーナーの図書等の充実・優先閲覧席の設置	区立図書館に10代の子どもの優先閲覧席を整備し、YAコーナーの図書等を充実させる。	中学生・高校生	優先席の設置	全館に優先席を整備	全館に優先席を整備	A:影響なし	E:事業終了	池袋図書館改修工事により、全館に優先席を整備	整備完了	特になし	4	読書会への提供	図書館課
38		ジャンプ(東池袋・長崎)の読書コーナーの充実	ジャンプ2施設の読書コーナーを充実させ、利用する中高校生の読書活動を支援する。	中学生・高校生	実施施設数	ジャンプ2施設で実施	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館に年に1回、中高生に対してお勧めの本の展示を実施した。 性の悩みや子どもの権利に特化したコーナーを常設した。 近隣図書館から利用者が興味を持っている分野の本を「団体貸出」にて月1回入替を行った。(長崎) またボランティアで保育園などに紙芝居などの読み聞かせ体験を行った。(長崎) 	A:影響なし	B:想定どおり	<ul style="list-style-type: none"> 利用者会議で中高生自身からも推奨する本を開き取り展示に活かすことができたため 受付横にYA図書を置くことで、身近に本を感じられる環境を整えるため。 	継続実施	特になし	4.5	<ul style="list-style-type: none"> SDGSに関連のある内容を取り上げた書籍を積極的に借りて利用者へ興味関心が高まるよう働きかける 推奨本紹介展示により多様な本を目にし中高生の興味を引くことよって4に繋がっていくと考えられる。 施設常設コーナーについては、人権やジェンダー平等などについての理解を深めることに結びついている。 	子ども若者課
39	重	学級文庫の実施・充実	図書委員等が選書した図書を各クラスに備えた学級文庫に設置し、教室で生徒が身近に本に接する環境を整え、読書活動に結びつける。	中学生	学級文庫を設置	8校(区立中学校)	学級文庫として図書委員おすすめの本10冊を教室置きにし、委員会の度に入れ替えを行った。	A:影響なし	B:想定どおり	感染予防を行いながら、各学校の実態に応じて実施しているため。	継続実施 学級文庫として図書委員おすすめの本10冊を教室置きにし、委員会の度に入れ替えを行う。	特になし	4	すべての生徒が質の高い読書活動が行えるよう、読書環境を整える。	中学導校課
40		学校図書館廃棄本のリサイクル	学校図書館の蔵書整理により廃棄になる図書のリサイクルコーナーを設置するなどして、生徒にリサイクル本を提供し読書活動につなげる。	中学生	リサイクルコーナーの設置	8校(区立中学校)	学校の実態に応じ、年に1~2回、廃棄本コーナーを設け、希望する生徒に渡すなど、リサイクル活動をした。	B:施設要因	B:想定どおり	感染予防を行いながら、各学校の実態に応じて実施しているため。	継続実施 年に1~2回、廃棄本コーナーを設け、希望する生徒に渡すなど、リサイクル活動をする。	手洗い・消毒を徹底する他、感染拡大状況に応じ、中止をしている学校では徐々に再開していく。	4・12	本のリサイクルを通し、読書活動を推進するとともに、持続可能な社会の構築に向けた意識を醸成する。	中学導校課

【高校生】

37			YAコーナーの図書等の充実・優先閲覧席の設置	再掲	高 中 校 学 生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲				図書館課
38			ジャンプ(東池袋・長崎)の読書コーナーの充実	再掲	高 中 校 学 生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲				子ども若者課

【特別な支援を必要とする子ども】

41			点字図書・録音図書(音声デジジー)・テキストデジジーや点訳絵本等の充実	視覚に障害がある子どものために、ボランティアの協力により点字図書、録音図書(音声デジジー)、テキストデジジーや点訳絵本などを作成・購入して、点字図書館の蔵書を充実する。	特別な支援を必要とする生徒・児童	①図書資料の充実 ②技術の習得 ③点訳絵本の作成	①点字図書25タイトル ②デジジー図書35タイトル ③点訳絵本10タイトル	受け入れタイトル数 ①点字図書:自館製作27タイトル・厚労省委託66タイトル ②デジジー:自館製作54タイトル・厚労省委託67タイトル ③テキストデジジー:自館製作16タイトル	B:施設要因	B:想定どおり	コロナ感染拡大防止により、ボランティアの来館を制限したため、製作数が減少した	継続実施	来館しなくても、製作が継続できるような運用の検討	4	読書機会の提供	図書館課
42	重 新	28	マルチメディアデジジーの充実<新規>	障害があり通常の本では読書が困難な子どものために、マルチメディアデジジーの活用により、読書環境を整備する。	特別な支援を必要とする生徒・児童	マルチメディアデジジーの充実	貸出回数拡大	平成30年度以降4館でマルチメディアデジジー図書の提供を行っているが、利用実績はない。	A:影響なし	C:工夫や改善必要	今後、障害者サービスとの連携を含め、運用を検討	継続実施	特になし	4	読書機会の提供	図書館課

(2)子どもと本をつなぐ施策の施策の充実

【乳幼児】

43			読書啓発活動の推進	地域の図書ボランティア団体や職員が、乳幼児を対象としたプログラムの読み聞かせ事業を実施する。	ボランティア	ボランティアの受入	22施設	読み聞かせボランティアの受け入れを4地区27回実施。区民ひろば職員等によるものも合わせて読み聞かせプログラムを115回実施。その他の事業でも読み聞かせを取り入れるなどした。	E:その他	B:想定どおり	感染症対策を講じながら可能な範囲で実施した。	継続実施	感染症予防のため、開催回数や参加人数を一部制限しながら実施する。状況が落ち着いた後は、感染防止対策を講じながら地域のボランティア団体の受け入れを増やす。	4・17	読み聞かせの機会を通じて乳幼児期から図書に興味を持てるようにし、生涯を通じた読書習慣の形成を図る。また、地域のボランティアとの連携により、より魅力ある継続的な事業とする。	地域 区 民 ひ ろ ば 課
----	--	--	-----------	--	--------	-----------	------	--	-------	---------	------------------------	------	--	------	---	----------------------------------

44	重	区立図書館読み聞かせボランティア活用による読書環境の充実	乳幼児のプログラムで開催しているおはなし会に、区立図書館の読み聞かせボランティア派遣を活用する。	保護者 乳幼児	読み聞かせボランティアによるおはなし会の開催	22施設	中止	B:施設要因	D:未実施	コロナ感染拡大防止のため、中止	継続実施	地域の要望もあることから、感染防止対策を講じながら開催できるように所管課と調整し実施する。 コロナ禍における事業展開を検討	4・17	読み聞かせの機会を通じて乳幼児期から図書に興味を持てるようにし、生涯を通じた読書習慣の形成を図る。また、地域のボランティアとの連携により、より魅力ある継続的な事業とする。 読書会会の提供	地域 図書 区民 ひろ ば 課
45		子どものための文化体験プログラムの実施	アート系NPO 法人と協働して、子どものときに読んでほしい本を題材とした演劇公演を開催する。また、絵本を活用したワークショップや読み芝居による鑑賞教室、絵本を取り入れた保育園派遣型プログラムを実施する。	小・乳 中・幼 児 生	参加者数	乳幼児900人、 小学生以上の区 民2,780人	①各区民ひろばで、俳優の読み聞かせによる演劇鑑賞教室を3か所で実施した。 ②絵本を取り入れた、アーティストによる派遣型ワークショップを、区内保育園3園で実施した。	E:その他	①C:工夫や改善必要 ②B:想定ど おり	①コロナの影響により区民ひろばで毎年実施している演劇鑑賞教室は、飛沫感染予防を心掛けたことで、会場に制限が出てしまい、8か所予定から3か所にとどまった。演目の工夫などで、小さい会場でも実施できるようにするなど改善の余地あり。 ②派遣型ワークショップについては、アーティストと触れ合うことで、普段とは違った園児の様子が垣間見え、園からも好評価だった。	①引き続き演劇鑑賞教室を7か所で実施予定。 ②絵本を取り入れた保育園派遣型プログラムは、同程度の規模で実施する。(具体的に何園で実施するかは現時点では未定)	①区民ひろばだけで実施していた演劇鑑賞教室を、令和3年度からは、子どもスキップでも実施を予定している。開催数を増やすだけでなく、これまで実績の少なかった小学生の参加者を増やすことで一層、事業の幅を広げていく。 ②令和2年度に文化デザイン課から保育課に事業移管をしたことで、子どもたちの文化体験という目的と同時に、保育の質を高めるための取り組みという意義がより明確となった。各保育園の保育方針や園児の様子を見ながら内容・方法等を決め、今後さらに保育の質の向上にも寄与する実践的なプログラムとし、事業の効果を高めていく。	4	質の高い文化を成長過程の中で学び、体験することで次世代の文化を担う若者を育成する。	文化 デザイン 課
46		読み聞かせボランティアの養成と子ども施設への派遣	読み聞かせボランティアを計画的に養成し、人材バンクに登録するとともに、子ども施設への派遣をコーディネートしてボランティアの活動を支援する。養成後にはスキルの維持向上のためのフォローアップ研修も実施する。	登録ボ ラン テ ィ ア	・養成(隔年) ・養成人数 ・フォローアップ研修(隔年)	奇数年度は養成講座、偶数年度はフォローアップ研修を隔年で実施 登録者数 60人	中止	B:施設要因	D:未実施	コロナ感染拡大防止のため、中止	継続実施	コロナ禍における事業展開を検討	4	読書会会の提供、生涯学習活動の支援	図 書 館 課
47		自主的な読み聞かせボランティアの活動支援	自主的に活動している読み聞かせボランティアを対象に講習会を実施し、読み聞かせの技術の維持向上を支援する。	区 民	講習会	2回	中止	B:施設要因	D:未実施	コロナ感染拡大防止のため、中止	継続実施	コロナ禍における事業展開を検討	4	読書会会の提供、生涯学習活動の支援	図 書 館 課
48		「赤ちゃんおはなし会」など乳児向け行事の開催	乳児と保護者が一緒に楽しむことができる、絵本の読み聞かせやふれあい遊び等の「赤ちゃんおはなし会」を定期的に開催する。	乳 幼 児	赤ちゃんおはなし会実施回数	事業を継続	乳児のおはなし会 5回 21人参加	B:施設要因	C:工夫や改善必要	コロナ感染拡大防止のため、一部中止のため回数減	継続実施	コロナ禍における事業展開を検討	4	就学前教育機会の提供	図 書 館 課
49		おはなし会等幼児向け行事の開催	定期的な「おはなし会」とともに、子どもと本をつなぐきっかけとなる各種行事を実施する。	幼 児 ・ 小 学 生	子ども向けおはなし会	事業を継続	幼児のおはなし会 60回 283人参加	B:施設要因	C:工夫や改善必要	コロナ感染拡大防止のため、一部中止のため回数減	継続実施	コロナ禍における事業展開を検討	4	就学前教育機会の提供	図 書 館 課

50			読み聞かせボランティア活用による「親子あそび広場」のプログラムの充実	ボランティア活用による読み聞かせを実施する。	乳幼児	読み聞かせ回数	225回	<ul style="list-style-type: none"> ＜東部子ども家庭支援センター＞ ・「おはなしもんだい」年7回 ・「豊島親子の読書の会」年6回 ・「中央図書館読み聞かせ」年0回 ・「リプリント」年3回（西部子ども家庭支援センター） ・「うりんぼうの読み聞かせ」年7回実施 ・「ひまわりの読み聞かせ」年0回(中止) 	C:人的要因	B:想定どおり	ボランティア活動自粛の申し出等により、実施回数減となった。	継続実施	活動希望があれば、感染防止対策をとり、実施を検討していく	3	読み聞かせを通し保護者に対し絵本の読み方や選び方を知る機会を創出する。	子育て支援課
51	重		絵本のプレゼント実施	妊娠中から1歳の誕生日までの妊婦向け事業・講座、育児講座等の参加者やバースデイ訪問などで絵本を配布し、読み聞かせや本に触れる機会を作る。	妊婦 1歳	・講座参加者、 ・バースデイ訪問者数	5,500人	<ul style="list-style-type: none"> ＜東西子ども家庭支援センター＞ ・育児訪問事業バースデイ訪問にて対象児に絵本を1冊プレゼント実施。年間917人 ・ウィルカム赤ちゃん、母親学級、スマイル講座、パパの応援講座実施時に配布。年間144人 	B:施設要因	B:想定どおり	講座参加者は密を防ぐため定員を減らしたを、バースデイ訪問者数合計は前年度と大きな増減がないため	継続実施	バースデイ訪問事業は通常通りの実施。その他講座については感染防止対策をとりつつ、縮小実施していく。	3	1歳の誕生日プレゼントとして区民(希望者)に絵本を配布。家庭で絵本に接する機会の増加につなげる。	子育て支援課
52			絵本の読み聞かせや行事の実施により、ものがたりや知識に触れる機会の充実	日常の保育の中に絵本の読み聞かせや紙芝居を取り入れ、また、自然を利用した行事を実施することで、想像力を育み、新しい知識を蓄える機会を作る。	園児	読み聞かせや知識の世界に触れる回数	全園で実施	<ul style="list-style-type: none"> ・全園で実施。 ・日常的に絵本や紙芝居などの読み聞かせを行っている。 ・行事の際には、いわれなどの話をするこことで、新しい知識に触れる機会を作っている。 	A:影響なし	B:想定どおり	日常の保育の中での絵本の読み聞かせを継続的にを行っている点や、行事を活用した取組が積極的に行われているため。	継続実施	消毒などの感染対策や一度に集まる人数の制限、読み手と園児の距離の確保などの対策を講じ、回数を減らさないように努めている。	4・5・10	絵本を通してジェンダー平等や人や国の不平等について、環境についてなどが意識できるものを多く取り入れていく。	保育課
53			地域の読書ボランティアの活用	読書ボランティアを活用したり、小中高校生との読書活動の交流で読書活動を推進する。	中学生・高校生 区・民	受け入れ交流回数	60回	コロナ禍の影響で読み聞かせボランティアや交流会が中止になった。	C:人的要因	D:未実施	コロナ禍において、園外の人々との交流はリスクが高いと判断したため。	継続実施	コロナ前の状況に戻りボランティア受け入れ可能な状況になったら推進していきたい。	4・11	ボランティア参加者に対しては生涯学習機会の提供。読み聞かせ対象の子供に対しては読書機会の創出。様々な世代、地域の方との交流する経験の提供。	保育課
54			保護者による読み聞かせ活動の実施	「おはなしりんご」など各園のおはなし会で、保護者による読み聞かせを実施する。	全園児	実施回数	園により5～12回	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回程度保護者による読み聞かせを実施した。 ・教員による読み聞かせを実施した。 	C:人的要因	C:工夫や改善必要	感染予防を行いながら、各幼稚園の実態に応じて実施しているが、保護者等の活用については要検討。	継続実施	感染拡大状況を勘案し、消毒、ソーシャルディスタンス等の予防対策を講じながら、読み聞かせを実施。	4	読み聞かせを通して、すべての園児に読書活動に慣れ親しむ機会を提供する。	区立幼稚園課

【小学生】

45			子どものための文化体験プログラムの実施	再掲	小・乳 中 幼 学 児 生	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲				文化デザイン課
55			子ども向け郷土資料の作成支援	地域の昔遊びや豊島の子ども文化、昔話を調査・収集し、地域のボランティアの著作・出版活動を支援する。	小学生	随時	地域のボランティア団体の要請に応じた支援を継続	地域史に関する問い合わせ等に随時対応を行った。	B:施設要因	C:工夫や改善必要	地域の昔遊びや豊島の子ども文化を伝えていくことは区の重要な責務であるが、聞き取り調査ができる方の把握が十分にできていない。また現状では著作・出版活動の支援も行っていない。	必要に応じて対応していく。	特になし	4	子ども向け郷土資料の作成支援を行うことで、学習機会の促進をはかる。	文化デザイン課
56	重		小学生向け行事の実施	定期的なおはなし会の他、季節にちなんだ「スペシャルおはなし会」や「映画会」、「工作会」等、子どもと本をつなぐ様々な行事を開催する。	小学生	全館で実施	毎年度実施	・全館共通事業 お任せセット 6,853冊 ・工作会 0回 0人 ・映画会 2回 18人 ・その他行事 6回 885人	B:施設要因	C:工夫や改善必要	コロナ感染拡大防止のため、一部中止のため回数減 代替措置として、全館で「お任せセット」事業を行った。	継続実施	コロナ禍における事業展開を検討	4	就学前教育機会の提供、読書機会の提供	図書館課
57			学校訪問・学級招待・職場体験等による学校支援	学校訪問・学級招待・職場体験等を通じて、図書館の仕事や利用方法の紹介をすともにも、本の読み聞かせやブックトークなどで本を紹介して読書活動推進のきっかけづくりも行う。	小・中学生	【小学生】 ・学校訪問 ・学級招待 【中学生】 ・職場体験	【小学生】 ・学校訪問 128回 ・学級招待 9回 【中学生】 ・職場体験 70人	中止	B:施設要因	D:未実施	コロナ感染拡大防止のため、中止	継続実施	連携先と調整のうえ、検討	4	読書機会の提供	図書館課
58			児童読書情報交換コーナーの充実	図書館利用者との読書情報交換のための掲示板を設置する。掲示板には、館内に設置した利用者の意見箱から収集した図書や読書に関する意見を掲示し、情報を提供し読書活動につなげる。	小学生	情報交換コーナーの設置を継続する。	情報交換コーナーを継続	休止中。児童の塗り絵作品などを展示	B:施設要因	D:未実施	掲示板前の密を避けるため、休止中	継続実施	コロナ禍における事業展開を検討	4	読書機会の提供	図書館課
59	重	28新	読書通帳の配布<新規>	読書通帳を作成し、区立図書館を利用する小中学生を対象に希望者に配布し、読書活動促進のきっかけづくりを行う。	小・中学生	区立図書館	配布冊数	読書通帳108冊を配布した。	A:影響なし	C:工夫や改善必要	休館、開館時間短縮による来館者減に伴う減	継続実施	特になし	4	読書機会の提供	図書館課

60			読書の楽しさを伝える各種事業の実施	「子どもスキップ」の事業や放課後子ども教室のプログラムで、読み聞かせやストーリーテリングなどのおはなし会を開催し、読書の楽しさを啓発し、本と結びつけるきっかけづくりを行う。	小学生	実施施設数	全てのスキップで実施	子どもスキップ事業や子ども教室のプログラムではおはなし教室を開催(15施設)	B:施設要因	D:未実施	定期的に放課後子ども教室ではおはなし会を開催した。	継続実施	令和2年3月以降、子どもスキップ一般利用及び放課後子ども教室は休止中のため、未実施。	4	子どもスキップ一般利用及び放課後子ども教室の中でおはなし会を開催することを通し、すべての人が充実した教育を受け、一生学び続けられる社会をつくるための活動とする。	放課後対策課
61			地域の読書ボランティア活用によるおはなし会の開催	子どもスキップや放課後子ども教室のプログラムや事業において、地域の読書ボランティアを受け入れて読み聞かせなどのおはなし会を実施し、読書活動を推進する。	小学生	実施施設数	全てのスキップで実施	子どもスキップや子ども教室の事業として地域のボランティアを受け入れておはなし会を開催(2施設)	C:人的要因	C:工夫や改善必要	地域のボランティア方に来てもらいおはなし会を開催した。	継続実施	現在、コロナ対策のため、ボランティアの受入が困難な状況にあるが、状況が回復した際には、推進していく。	4	地域ボランティアを受け入れておはなし会を開催することを通し、すべての人が充実した教育を受け、一生学び続けられる社会をつくるための活動とする。	放課後対策課
62	重		学校司書の配置	学校図書館に専門的な知識・経験を有する学校図書司書を配置し、資料管理や調べ学習など授業支援を充実させる。	小学生	配置日数	22校(区立小学校)週2日	・28年度より図書館課所属の非常勤職員を一部の学校図書館に配置し、29年度から全校に非常勤職員(会計年度任用職員)を配置した。	A:影響なし	B:想定どおり	委託職員に比べ1日の配置時間が増え、より教職員との連携が図れたため。	継続実施	特になし	4	学校図書館司書の充実により、誰一人取り残すことなく読書活動を行えるよう、子供達への支援を強化する。	小指学校課
63	28新		学校図書館への区立図書館司書の活用<新規>	区立図書館の図書館司書(非常勤職員)を区立小・中学校の学校図書館司書として活用し、学校図書館の運営や児童・生徒の読書活動を支援する。さらに、図書館資料の教員への情報提供と多面的な学校支援を展開する。	小・中学生	小学校配置 中学校配置	29年度 区立中学校8校派遣	平成29年度に区立小・中学校全校に区立図書館司書を配置し、平成30年度に図書館課から指導課へ図書館司書を移管した。		E:事業終了	事業終了	30年度に指導課へ移管により事業終了	4	学校図書館司書の充実により、誰一人取り残すことなく読書活動を行えるよう、子供達への支援を強化する。	図書館課	
64			読書習慣の形成	「朝読書」「読書の時間」、学校独自の読書推進期間の設定などにより、学校活動における読書時間の確保と読書活動の習慣の確立を支援する。	小学生	全校一斉の読書活動の実施	月1校	・校内での読み聞かせ活動(動画を撮影したもの) ・図書委員会による読書紹介 ・栄養士と連携した「お話し給食」の実施 ・「図書館だより」の発行 ・朝読書の設定 ・図書館から学級文庫用に団体貸付依頼 ・休み時間の図書室開放 ・「図書ビンゴ」「読書福袋」の実施	C:人的要因	B:想定どおり	感染予防のため動画配信等の工夫をしながら各学校の実態に応じて実施したため。	継続実施	感染拡大状況を勘案し、消毒、ソーシャルディスタンス等の予防対策を講じながら、読み聞かせ等を再開、また、ICT機器を活用した読み聞かせや読書紹介を実施。	4	学校活動において、読書活動時間を確保することにより、誰一人取り残すことなく読書活動に慣れ親しむことができる環境づくりに繋げる。	小指学校課
65			図書委員会活動による読書活動の推進	図書委員会活動を活発にし、図書委員の主体的で継続的な読書活動により学校図書館の利用を促進する。	小学生	各校の実態に応じた活動を実施	各校の実態に応じた活動を実施	・常時活動し、図書館の本の整備、新着図書等の紹介一冊に沿った本の紹介、読書月間での動画配信、ポスター作成等による本の紹介、読書キャンペーン等、自主的な読書活動を推進している。2年度は当番活動の一時停止、図書室の利用制限により委員会活動を一部縮小。	B:施設要因	C:工夫や改善必要	各学校の実態に応じて実施したが、児童の活動が一部縮小したため。	継続実施	ICT機器を活用した読み聞かせや読書紹介を含め、新しい生活様式の下での図書委員会活動を検討・実施。	4	ICTの活用などにより、多様な子供一人ひとりに対して読書活動の支援を推進する。	小指学校課

70	重 新	28 新	学校図書館への 区立図書館司書 の活用 <新規>	区立図書館の図書館司書(非常勤職員)を区立小中学校の学校図書館司書として活用し、学校図書館の運営や児童・生徒の読書活動を支援する。さらに、図書館資料の教員への情報提供と多面的な学校支援を展開する。	小・中学生 小学校配置 中学校配置	29年度 区立中学校8校派遣	平成29年度に区立小・中学校全校に区立図書館司書を配置し、平成30年度に図書館課から指導課へ図書館司書を移管した。		E:事業終了	事業終了	30年度に指導課へ移管により事業終了	4	学校図書館司書の充実により、誰一人取り残すことなく読書活動を行えるよう、子供達への支援を強化する。	図書館 指導課	
71	重		読書習慣の確立	朝、学級活動前の10分間の朝読書活動を継続的に実施するなど、読書習慣の確立を支援する。	中学生 全校一斉の読書活動の実施	月1回	・全校生徒が本の紹介カードを記入し、全作品が図書室や廊下に掲示されている。 ・国語の授業ないで朝の読書で読んだ本のブックトークを実施している。 ・朝学活前10分間の朝読書を行う。	A:影響なし	B:想定どおり	各学校の実態に応じて実施しているため。	継続実施	特になし。	4	学校活動において、読書活動時間を確保することにより、誰一人取り残すことなく読書活動に慣れ親しむことができる環境づくりに繋げる。	中指 学導 校課
72	重		ピブリオバトル等 実施による読書 活動の促進	授業や図書委員会のイベントとしてピブリオバトル等を実施するなど、読書の感想を伝える場を設定して読書活動の推進と学校図書館利用を促進する。	中学生 本を読んで思ったことを伝える授業やイベント等を実施	8校 (区立中学校)	・国語の授業で、ピブリオバトルを実施した。 ・感染防止や授業時間確保の観点から、一部学校においてイベント中止。	B:施設要因	C:工夫や改善必要	各学校の実態に応じて実施したが、イベントを中止した学校があったため。	継続実施	手洗い・消毒・ソーシャルディスタンスを徹底する他、感染拡大状況に応じ、中止をしている学校では徐々に再開していく。	4・5	読書感想を伝える場をつくることにより、多様な考え方に触れる機会と、読書活動の更なる推進に繋げる。	中指 学導 校課
73	重		図書委員会活動 による読書活動 の推進	図書委員会活動を活発にし、図書委員の主体的で継続的な読書活動により学校図書館の利用を促進する。	中学生 各校の実態に応じた活動を実施	各校の実態に応じた活動を実施	・学級文庫として図書委員おすすめの10冊を教室置きにし、委員会の度に入れ替えを行っている。 ・図書委員会で、しおりを作成し、本を借りた人、または上半期下半期などでクラス中一番多く借りた人などに、プレゼントしている。 ・国語科の授業で、おすすめの本を紹介したり、よく本を読んでいる人を紹介したりした。 ・本にブックマークをつけ、生徒用に和紙でカバーやしおりを作ったり、朝読書用のクラス設置本を毎月選んで入れ替えたり、ポスターやポップを作成し校内に掲示したりしている。 ・図書室の本の表紙に本の紹介カードを貼り、本への興味関心が高まる工夫を行った。 ・読書週間に、図書委員がブックトークを行った。 ・お昼の放送で本の紹介をする。 ※学校により一部縮小。	B:施設要因	B:想定どおり	各学校の実態に応じて一部縮小もあったが、感染予防を行いながら工夫して実施したため。	継続実施	手洗い・消毒・ソーシャルディスタンスを徹底する他、感染拡大状況に応じ、中止をしている学校では徐々に再開していく。	4	図書委員会活動の活発化により、質の高い読書活動推進し、誰一人取り残すことなく読書活動の支援に繋げる。	中指 学導 校課
74	重 新	28 新	プライベート読書 時間の設定 <新規>	プライベートな時間に、一定の時間や時間帯を[読書の時間]と決めて、読書することを生徒に推奨して読書習慣の形成を促す。	中学生 図書だよりの発行	学期ごとに1回発行	一定の時間や時間帯を[読書の時間]と決めて読書する。	A:影響なし	B:想定どおり	各学校の実態に応じて実施しているため。	継続実施	特になし。	4	プライベート読書時間を設定するとともに、誰一人取り残すことなく読書活動を行える環境づくりに推進する。	中指 学導 校課

【高校生】

67			YA読書情報交換コーナーの充実	再掲	高 中 学 生	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲			図書館課	
75	重 新	28	YA向け読書活動促進行事の実施(ビブリオバトル)<新規>	仕掛け絵本のワーキショップや高校生を対象としたビブリオバトルなど、各種行事を通じて読書意欲や読書活動への動機づけを行う。	中 学 生 ・ 高 校 生	ワークショップ ・ ビブリオバトル	毎年度1回実施	中止	B:施設要因	D:未実施	コロナ感染拡大防止のため、中止	1回開催する。	コロナ禍における事業展開を検討	4	読書機会の提供	図書館課
76	重		学校訪問によるブックトーク等の実施	高等学校の要請により学校訪問を行い、ブックトークなどで10代に人気のおすすめ本を紹介し、図書館の利用や読書の動機づけを行う。	高 校 生	学校訪問	高等学校からの要請	中止	B:施設要因	D:未実施	コロナ感染拡大防止のため、中止	学校からの申込を受付ける。	連携先と調整のうえ、検討	4	読書機会の提供	図書館課

【特別な支援を必要とする子ども】

77			点訳・音訳・対面朗読サービスの実施	障害のある子どもからの申請に基づき、蔵書にないリクエスト資料について、ボランティアによる点訳・音訳・対面朗読サービスを実施する。	特 別 な 支 援 を 必 要 と す る 生 徒 ・ 児 童	①図書資料の充実 ②技術の習得 ③点訳絵本の作成	①点字図書 25タイトル ②デージー図書 35タイトル ③点訳絵本 10タイトル	プライベート制作数 ①点字図書2タイトル ②デージー図書 なし ③点訳絵本 なし 対面朗読:休止中	B:施設要因	A:想定以上	コロナ感染拡大防止により、ボランティアの来館を制限したため、制作数が減少した	継続実施	来館しなくても、制作が継続できるような運用の検討	4	読書機会の提供	図書館課
78			点字図書館や点訳図書等の普及・啓発	通常学級の子どもの対象に、職場体験等のプログラムで点字図書館の業務内容を組み込んだり、夏休みに開催する点字教室で点字体験をする機会を設けるなどして点字図書館や視覚障害者への理解を深めるきっかけづくりをする。	小 ・ 中 学 生	・学校訪問・学級招待 ・中学生職場体験 ・特別支援学校の職場体験	・小学校 3校 ・中学校 2校 ・特別支援学校 1校	中止	B:施設要因	B:想定どおり	コロナ感染拡大防止のため、中止	継続実施	連携先と調整のうえ、検討	4	障害者サービスの周知による障害者への読書機会の提供と、障害者理解の促進	図書館課
79			特別な支援を必要とする子どものための読書機会の提供	区立小・中学校の特別支援学級や大塚ろう学校に学校訪問して、読書のきっかけづくりを行うとともに団体貸出を実施する。	小 ・ 中 学 校	・学校訪問 ・団体貸出	学校からの要請	中止	B:施設要因	D:未実施	コロナ感染拡大防止のため、中止	継続実施	連携先と調整のうえ、検討	4	読書機会の提供	図書館課

80	28新	マルチメディア デジター活用による 読書支援 <新規>	区立小・中学校の特別支援学級への団体貸出に、マルチメディアデジターを活用して読書支援を行う。	小・中学校 ・団体貸出	団体貸出回数 の拡大	マルチメディアデジターの資料 整備が未実施	A:影響なし	D:未実施	今後、障害者サービス との連携を含め、運用 を検討	資料収集を検 討する。	特になし	4	読書機会の提供	図書館課	
81		特別な支援を必 要とする子どもの 読書活動の充実	乳幼児発達支援事業の療育活動において、絵本読み聞かせ等の読書活動を実施する。	障 害 児	通所指導時の読 み聞かせ回数	2,400回	(西部子ども家庭支援センター) 発達支援事業 通所指導開所日数延べ357日 フォローグループ開所日数 延べ48日 合計年間延べ405日	E:その他	B:想定どお り	一か月ほどの休止期 間があり開所日数の 減、療育活動の中 の読み聞かせの頻度も 減った	継続実施	開所日数の中で引き続 き実施していく。	3	家庭でも保護者と本に 親しめるよう、療育の中 で絵本に接する時間を 作る。	子育て支援課

(3) 区立図書館の活用を推進するための諸施策

【乳幼児】

82		「とよねっと」便 の運行	区立幼稚園、区立小・中学校、区内六大学へ交換便を運行して、図書館の図書貸出利用の便を図り、読書活動を促進する。	幼 児 ・ 大 学 ・ 中 学 生	運行回数	週2回の運行を継 続	区立幼稚園、区立小・中 学 校、区内六大学へ毎月2回、 子どもスキップと区民ひろば(1 2施設)へ毎月1回、図書運 搬便を運行した。	A:影響なし	B:想定どお り	来館が難しい時期に、 多く活用された	令和3年度は区 民ひろばへの 団体貸出の運 用方法の見直 しを予定。	特になし	4	読書機会の提供	図書館課
83		団体登録貸出制 度による児童書 の貸出	団体登録貸出により、保育園、幼稚園、区立小・中学校、その他子ども施設へテーマ別リクエストによる児童書の貸出をする。小・中学校へは団体貸出セットの貸出も実施する。	保 育 小 園 ・ 中 学 稚 園	団体貸出回数	保育園・幼稚園80 回	幼稚園・保育園へ210回の団 体貸出を行った。	B:施設要因	A:想定以上	幼稚園、保育園の休園 により影響があった。	継続実施	特になし	4	読書機会の提供	図書館課
84		乳幼児向けブ ックリストの配布	0～2歳児向け、3～6歳児向けブックリストを作成し、図書館で配布するほか、保育園、幼稚園や関係施設に配布して読書活動を啓発し、区立図書館の利用促進に結びつける。	保 護 者	配付先施設数(保 育園、幼稚園、区 民ひろば、保健 所)	88所	151施設(区民ひろば、子ども 家庭支援センター、保健所、 保育園、幼稚園)へブックリスト を送付した。	A:影響なし	A:想定以上	保育園の増加により、 配布施設数が増加し た。	毎年度改訂し、 継続して発行す る。	特になし	4	就学前教育機会の提供	図書館課
85		子ども向け図 書館ホームページ の充実	図書館ホームページの「こどもページ」と「10代のためのページ」を充実し、推薦図書の紹介、催し物の案内、調べ学習に関する情報等を掲載し、図書館利用や図書資料の利用を活発にする。	乳 幼 児 高 校 ・ 小 学 生 ・ 中 学 生	特集欄の紹介をす る	毎月 (YAは隔月)	毎月(YAは隔月)特集展示内 容をHPで紹介した。	A:影響なし	B:想定どお り	ホームページへの掲載 によるPRで、図書館利 用を促進した。	継続実施	特になし	4	読書機会の提供	図書館課

			30新	図書ネット便活用による区民ひろばへの団体貸出	区民ひろばを利用する乳幼児向けの絵本を図書館司書が選定し、毎月図書ネット便で配送することで読書活動を支援する。	乳幼児・小学生 ・利用施設数 ・貸出回数	毎年度実施	区民ひろば22施設で実施	A:影響なし	B:想定どおり	リサイクル本を活用して、事業を運用している	継続実施	特になし	4	読書機会の提供	地域図書ひろば課
--	--	--	-----	------------------------	---	----------------------------	-------	--------------	--------	---------	-----------------------	------	------	---	---------	----------

【小学生】

			82	「とよねっと」便の運行	再掲	幼児・小学生・中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲				図書館課	
			85	子ども向け図書館ホームページの充実	再掲	乳幼児・高校生・中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲				図書館課	
			86	団体登録制度による児童書の貸出	団体登録貸出により、保育園、幼稚園、区立小・中学校、その他子ども施設へテーマ別リクエストによる児童書の貸出をする。小・中学校へは団体貸出セットの貸出も実施する。	保育・園中・幼稚園	団体貸出回数	小学校1,000回 中学校24回	リクエストによる貸し出しを小学校へ419回、中学校へ3回、その他の施設へ21回の団体貸出を行った。	B:施設要因	B:想定どおり	小・中学校への学校図書館司書配置により、貸出回数が増加した。	継続実施	特になし	4	読書機会の提供	図書館課
			87	ブックリストの配布	小学生、中・高校生向けブックリストを作成し、図書館で配布するほか、区立小・中学校や関係施設に配布して読書活動を啓発し、図書館の利用促進に結びつける。	小・高・中学生	区立小学校、中学校に配布	・区立小学校全校児童 ・区立中学校全校生徒	・区立中学校全校生徒及び区立小学校全校児童にブックリストを配付	A:影響なし	B:想定どおり	毎年改定し配布することで、読書活動を啓発する。	継続実施	特になし	4	読書機会の提供	図書館課
			30新	図書ネット便活用による子どもスキップへの団体貸出	子どもスキップからのリクエストに応じた図書を毎月図書ネット便で配送し、児童の読書活動を充実させる。	小学生	・利用施設数 ・貸出回数	30年度 13施設 31年度 16施設 32年度 19施設 各年度 11回	リクエスト申込による団体貸出を21施設、年間11回配送した。	A:影響なし	A:想定以上	放課後対策課の要望に基づき、全施設への図書配送を本格実施した。利用施設数が目標値を上回った。	継続実施	コロナ対策の為、各事業が中止となる中で、図書ネット便活用は充実可能であるため、より推進していく。	4	図書ネット便の活用を通して、すべての人が充実した教育を受け、一学生び続けられる社会をつくるための活動とする。	放課後対策課

【中学生】

			82	「とよねっと」便の運行	再掲	幼児・小学生・中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲				図書館課
--	--	--	----	-------------	----	------------	----	----	----	--	----	----	--	--	--	------

85		子ども向け図書館ホームページの充実	再掲	乳幼児・高校・小・中学生	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲				図書館課
86		団体登録制度による児童書の貸出	再掲	保育園・小・中学生・幼稚園	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲				図書館課
87		ブックリストの配布	再掲	中学生	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲				図書館課

【高校生】

85		子ども向け図書館ホームページの充実	再掲	乳幼児・高校・小・中学生	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲				図書館課
87		ブックリストの配布	再掲	高校生	再掲	再掲	再掲			再掲	再掲				図書館課

A:影響なし
 B:施設要因
 C:人的要因
 D:備品要因
 E:その他

A:想定以上
 B:想定どおり
 C:工夫や改善必要
 D:未実施
 E:事業終了